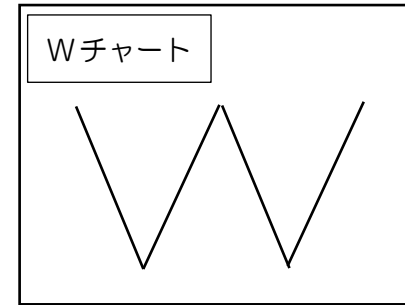
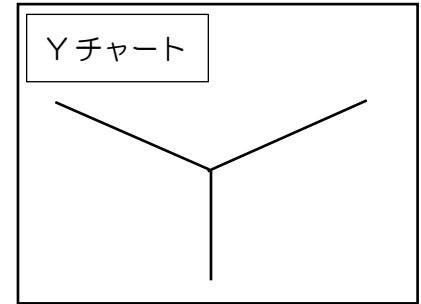
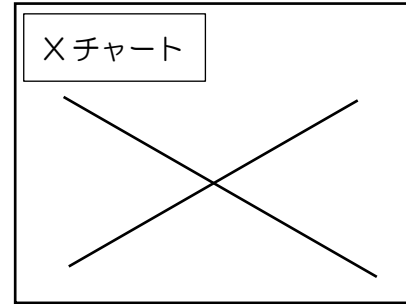


Xチャート・Yチャート・Wチャート

X, Y, Wの文字によって区切られた領域に、それぞれ「見た感じ」「聞いた感じ」「触った感じ」などの視点を割り当てて、対象を「多面的に見る」ときに使う。

どのような視点を設定するかは、授業の意図によって異なる。生活科などで体験を通じた気づきを書かせるのであれば、感覚でよいが、歴史を扱うときには異なる視点が必要となる。視点を自分で設定させたりグループで考えさせたりすることが望ましい場合もある。観察するときに、どのような視点が重要かに意識を向けることができる。



【使い方】

- ①授業の目標に合わせて、対象に対して考えさせる視点を設定する。一般には教師が設定するが、子どもに任せる場面もある。
- ②自由に書き込みができるように十分な大きさの紙を用意して、視点の数に合ったチャートを描く。
- ③それぞれの視点から対象を見て、思うこと、感じること、考えること、あるいは集めた情報などを書き込ませる。
- ④それぞれの視点に書き出されたことを元に、感想文やレポート、発表原稿などを作成させる。

